

2026年度4月期入学

京都大学大学院情報学研究科
修士課程学生募集要項

(2025年7月・8月実施)

京都大学大学院情報学研究科

情報学研究科アドミッション・ポリシー

京都大学情報学研究科の掲げる「情報学」は、広く自然、人工、社会および生命システムにおける「情報」を対象としており、情報学研究科の教育研究は「人間・社会と情報とのインターフェース」、「数理モデリング」、「情報システム」というキーワードを3本の柱とする「広い意味での情報学」で特徴づけられています。情報学研究科ではこれらのキーワードに関連する個々の学術分野において新しい学術や技術を創生するだけでなく、情報の本質を理解し、情報技術が人類・社会に与える影響を理解し、情報に関する科学・技術が正しい方向に進展することを目指し、京都大学の目指す地球社会の調和ある共存の実現に「広い意味での情報学」の視点から貢献しようとしています。

情報学研究科の求める大学院生像は、このような研究科の理念を理解し、情報学研究科の掲げる「広い意味での情報学」の学術や技術の学修に熱意を持ち、また未来に向けて情報学の新たな領域を開拓しようとする意欲を持った優秀な学生と考え、そのような人材の幅広い受け入れを考えています。そのため、志願者の学修・研究を志す学術分野について一定の基礎学力を有していれば、「広い意味での情報学」と関わる多様なバックグラウンドの学生を、理系・文系という枠組みにとらわれず、また国内に限らず世界中から、広く受け入れます。また、既に社会に出て活躍している人に対しても、情報学を熱意をもって学ぼうとする人には広く門戸を開きます。

具体的な選抜基本方針としては、京都大学が望む、優れた資質を有して学問に対する意欲に溢れた人材に対して、情報学研究科の目指す「広い意味での情報学」に関わるいずれかの学術分野に関心を持ち、その分野に関する基礎学力と高いコミュニケーション能力を有する人材を、筆記試験と口頭試問等の組み合わせにより評価し、出身にとらわれずに幅広く受け入れます。さらに博士後期課程では、各自の専攻学術の基礎学力を背景に「広い意味での情報学」の最先端の知見を熱意をもって学修しようとする意志と能力を提出された書類等によって評価し、今後の情報学の発展に寄与する学術の創生や技術開発の研究に熱意をもって取り組む人材を受け入れます。

本研究科の修士課程は、大学院設置基準第4条第4項にいう博士課程の前期2年の課程である。
また、知能情報学コース、社会情報学コースおよび通信情報システムコースには国際プログラムが設置されており、国際プログラムでは英語だけでの修了が可能である。

本募集要項における日時の表示については、すべて日本標準時とする。
募集要項に関しては和文で書かれた本募集要項が正規版であり、英文版は参考資料である。
また英文版は <https://www.i.kyoto-u.ac.jp/en/admission/application/>からもダウンロード可能である。

I. 募 集 人 員

知能情報学コース 33名	社会情報学コース 43名	先端数理科学コース 14名
数理工学コース 25名	システム科学コース 28名	通信情報システムコース 48名
データ科学コース 16名	合 計 207名	

◎ 知能情報学コース、社会情報学コースおよび通信情報システムコースは国際プログラム若干名を含む。

II. 出 願 資 格

◎次の各号のいずれかに該当する者、あるいは、2026年3月末をもって、該当する見込みの者

- 1 日本の大学又は専門職大学を卒業した者
- 2 学校教育法（昭和22年法律第26号）第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者
- 3 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者（注1）
- 4 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者（注1）
- 5 我が国において、外国の大学（専門職大学に相当する外国の大学を含む。以下この項において同じ。）の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了した者（注1）
- 6 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- 7 文部科学大臣が指定する専修学校の専門課程を文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- 8 文部科学大臣の指定した者
- 9 日本の大学又は専門職大学に3年以上在学した者（学校教育法第102条第2項の規定により、これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）であって、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと本研究科が認めた者（注1、注2、注3）
- 10 本研究科において、個別の出願資格審査により、大学又は専門職大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達している者（注4）

注1. 合格者については入学手続に先立って入学資格を別途確認するが、その際に提出書類等に虚偽が判明した際は遡及して合格を取り消す。

注2. 日本の大学のいわゆる飛び級による受験者は出願資格9に該当する。学力検査の際に、提出された書類と学力検査結果を総合して出願資格審査も行なわれ、その結果は学力検査の結果と合わせて合格発表に含まれる。

注3. 出願資格9により受験し、入学試験において合格と判定された者は、①2025年度の成績証明書等成績確認のための書類の提出を2026年3月に求められる場合がある。この際、成績調査の結果、入学試験時に修得が見込まれていた単位に不足があるなど優秀な成績でないと判断した場合には、合格を取り消すことがある。②入学手続き時に、退学証明書を提出すること。（したがって、在学中の大学における学士の学位を取得することはできない。）

注4. 出願資格10による者は、事前に出願資格審査を受けなければならない。（出願資格審査の項参照）事前の出願資格審査を受けずに出願書類を提出しても受理しない。

Ⅲ. 出 願 資 格 審 査（出願資格10による出願該当者）

出願に先立ち資格審査を行うので、次の書類を、2025年5月19日（月）午後5時までに情報学研究科教務掛（総合研究8号館1階）に提出すること。送付する場合は、必ず書留速達便・レターパックプラス等の安全な手段により、封筒の表に「情報学研究科修士課程（2026年4月期）出願資格認定申請」と朱書（レターパックプラスの場合は「品名」に記載）すること。

1. 出願資格審査必要書類（＊印は、募集要項に所定用紙が添付されている）

提出書類は日本語または英語で作成すること。日本語あるいは英語でない書類には、日本語訳あるいは英語訳を添付すること。

＊	1	出願資格認定申請・調書	
	2	卒業証明書	最終出身学校が作成したもの
	3	成績証明書	最終出身学校が作成したもの

2. 審査方法及び日程

(1) 出願資格の認定申請をした者には、書類審査、並びに大学卒業程度の学力について筆記試験（教養科目、英語）及び口頭試問（専門科目）を行う。

ただし、過去に本研究科の出願資格審査を受け、出願資格を有すると認定された者は、上記必要書類の＊1の申請・調書のみ提出すれば十分である。筆記試験及び口頭試問は省略する。

筆記試験及び口頭試問は、2025年5月29日（木）に本研究科において行う。

(2) 資格審査の結果は、2025年6月3日（火）に申請者あてに郵送により通知する。

Ⅳ. 修士課程出願書類等（＊印は、募集要項に所定用紙が添付されている）

提出書類は日本語または英語で作成すること。日本語あるいは英語でない書類には、日本語訳あるいは英語訳を添付すること。提出書類に不正のある場合は失格とし、入学後に判明した場合には、過去に遡って合格を取り消す。

海外からの出願の場合に限って、当研究科ホームページから入学願書等をダウンロードして出願することが可能である。

<https://www.i.kyoto-u.ac.jp/en/admission/application/>（英語）

＊	1	入学願書・写真票・受験票	所定の用紙に必要事項を正確にボールペンで記載のこと。 写真票・受験票には、上半身脱帽正面向きで出願前3か月以内に単身で撮影した写真（画像加工、画像処理等を行っていないもの）（縦4cm×横3cm）を枠内に貼り付けること。
	2	成績証明書	出身・在籍大学が作成したもの。
	3	志望説明書	これまでの学修・研究の経過、志望動機、入学後の研究の抱負などをA4判2ページ以下にまとめたものを提出すること。冒頭

		<p>に出願者名を明記し、卒業研究に相当する科目を履修した場合（履修中も含む）は、当該科目のテーマと内容も明記すること。（様式随意、文書作成ソフト等を使用して清書することが望ましい）</p>
	4 在留カード又はパスポートの写し	<p>外国人留学生で、日本に在留している者は、在留資格、在留期間及び現住所が記載された在留カードの表裏両面の写しを、海外在住の者はパスポートの顔写真のあるページの写しを、A4判の用紙にコピーして提出すること。</p>
	5 入学検定料振込書類	<p>入学検定料については、「EX-決済」にて支払うこと。以下のURLにアクセスし、画面の指示に従って入学検定料（30,000円）を支払い、支払い確認画面から収納証明書を印刷したものをA4判の用紙に貼り付けて、出願書類と共に提出すること。</p> <p>https://www3.univ-jp.com/kyoto-u/inf/</p> <p>振込期間 2025年6月4日（水）～6月17日（火） （最終日は午後5時まで）（期間外取扱不可）</p> <p>*日本国内から出願する場合 指定のコンビニエンスストア、クレジットカード （VISA、Master Card、JCB、AMERICAN EXPRESS、Diners Club INTERNATIONAL）、金融機関 ATM（Pay-easy）または指定のネットバンキングのいずれかで支払うこと。（出願者本人の名義ではない（例：両親等）クレジットカードや銀行口座での支払いも可能。）</p> <p>*日本国外から出願する場合 クレジットカード（VISA、Master Card、JCB、AMERICAN EXPRESS、Diners Club INTERNATIONAL）により支払うこと。（出願者本人の名義ではない（例：両親等）クレジットカードでの支払いも可能。）なお、居住している国、地域の事情等により、クレジットカードでの支払いができない場合は、5月26日（月）までに最終頁の【問合せ先】に連絡すること。</p> <p>【入学検定料の免除等について】</p> <p>※1 国費留学生として入学予定のものも入学検定料を納付すること。国費留学生として本学に入学が決定した場合は、別途手続のうえ検定料を返還する。（詳細は入学手続き時に案内する）</p> <p>※2 本研究科の2026年度修士課程推薦選抜（知能情報学コース・先端数理科学コース）を出願した者の出願については、本募集に対する入学検定料は不要である。出願に際しては、「2026年度修士課程推薦選抜受験票」の写しを提出すること。</p> <p>※3 本研究科の2025年度10月期入学の修士課程選抜を併願する者で、当該募集と本募集の出願を同時に行う場合は、本募集に対する入学検定料は不要である。</p> <p>※4 京都大学総長が指定する災害による災害救助法適用地域において、主たる家計支持者が被災した者については、罹災証明書等を得ることができる場合は、入学検定料を免除することがある。対象となる災害及び要件については、京都大学ホームページ（「入学検定料の免除について」 （https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/admissions/fees-exemption）を参照</p>

		のこと。詳細については、2025年6月2日（月）までに情報学研究科教務掛まで問い合わせること。
*	6 入学手続き書類送付用シール	入学手続き書類送付用とし、所定の用紙に2026年3月上旬の住所・氏名・郵便番号を記入すること（提出後、住所変更があった場合には、速やかに届け出ること）。
*	7 受験票送付用封筒（募集要項添付の封筒を使用する場合）	募集要項添付の封筒に、760円分の切手（速達・簡易書留扱い）を貼り、2025年7月下旬（先端数理科学コースにおいては7月上旬）に受験票を受け取る住所・氏名・郵便番号を記入のこと。
*	8 合否結果通知書送付用封筒（募集要項添付の封筒を使用する場合）	募集要項添付の封筒に、2025年8月中旬（先端数理科学コースにおいては、7月下旬）に受け取る住所・氏名・郵便番号を記入すること（提出後、住所変更があった場合には、速やかに届け出ること）。
	9 あて名票 A（海外から募集要項をダウンロードして出願する場合）	受験票送付用とし、所定の用紙に2025年7月下旬（先端数理科学コースにおいては7月上旬）に志願者本人が日本に滞在予定の場合のみ所定欄に日本国内の住所・氏名・郵便番号を記入すること。
	10 あて名票 B（海外から募集要項をダウンロードして出願する場合）	合否結果通知書送付用とし、所定の用紙に2025年8月中旬（先端数理科学コースにおいては、7月下旬）に志願者本人が日本に滞在予定の場合のみ所定欄に日本国内の住所・氏名・郵便番号を記入すること。（提出後、住所変更があった場合には、速やかに届け出ること）
	11 あて名票 C（海外から募集要項をダウンロードして出願する場合）	入学手続き書類送付用とし、所定の用紙に2026年3月上旬に志願者本人が日本に滞在予定の場合のみ所定欄に日本国内の住所・氏名・郵便番号を記入すること（提出後、住所変更があった場合には、速やかに届け出ること）。
*	12 出願資格認定申請・調書	（出願資格9・10該当者のみ）
	13 推薦書	（出願資格9該当者のみ。ただし先端数理科学コース志望者は不要）在籍する大学が作成し、厳封したもの（様式随意）
	14 教育課程表	（出願資格9該当者のみ）在籍する学科等の開講科目の講義内容等が詳細に記載されたもの。ただし本学在学学生は不要。
	15 TOEFL/TOEIC/IELTS スコア票	<p>〔知能情報学コース、社会情報学コース、数理工学コース〕 TOEFL テストの ETS から送付された公式スコアレポート（Test Taker Score Reports）の写し、TOEIC 個人用公式認定証（Official Score Certificate）の写し、IELTS の成績証明書（Test Report Form）の写しのいずれかを提出すること。</p> <p>〔システム科学コース・データ科学コース〕 TOEFL テストの ETS から送付された公式スコアレポート（Test Taker Score Reports）の写しを提出すること。TOEIC、IELTS の成績証明書は認めない。</p> <p>〔通信情報システムコース〕 TOEFL テストの ETS から送付された公式スコアレポート（Test Taker Score Reports）の写し、あるいは TOEIC 個人用公式認定証（Official Score Certificate）の写しを提出すること。</p> <p>詳細はV. TOEFL/TOEIC/IELTS テスト受験に関する注意事項に従うこと。</p>

（注1）Ⅱ. 出願資格2の見込みの該当者は、上記書類のほか「学士の学位授与申請予定である旨の証明書」（様式随意：学位が得られないこととなった場合は、速やかに通知する旨の記載のあるもの）を提出すること。

（注2）本学他研究科の在学学生で合格した場合は、入学手続き時に退学（または修了）証明書の提出が必要である。

- (注3) 2025年度10月期入学の修士課程選抜を併願する者で、当該募集と本募集の出願を同時に行う場合は上記出願書類のうち2、4、15はそれぞれ1通のみの提出でよい。
- (注4) 外国人留学生で合格した者は、本学への入学に際して、在留資格(留学)、在留期間の記載された住民票または在留カード(写)の提出が必要である。
- (注5) 知能情報学コース、社会情報学コース、数理工学コース、システム科学コース、通信情報システムコース、データ科学コースでは、英語能力の評価にTOEFL/TOEIC/IELTS(システム科学コース、データ科学コースはTOEFLのみ利用可、通信情報システムコースはTOEFL/TOEICのみ利用可)テストのスコアを利用する。詳細についてはV. TOEFL/TOEIC/IELTSテスト受験に関する注意事項を参照のこと。
- (注6) TOEFL/TOEIC/IELTSテストのスコア票の提出のない場合は、原則として、英語能力の評価を0点として扱う。

V. TOEFL/TOEIC/IELTSテスト受験に関する注意事項

1. 各自でTOEFLテスト、TOEIC Listening & ReadingテストまたはIELTS Academicテストの申込手続きを行い、受験すること。TOEFL、TOEIC、IELTSテストの受験に必要な費用は各自で負担すること。
2. TOEFL (TOEFL iBT) の受験者用控えスコア票 (Test Taker Score Report) の写し、TOEIC Listening & Reading Test の個人用公式認定書 (Official Score Certificate) の写し、またはIELTS Academic の成績証明書 (Test Report Form) の写しを出願時に提出すること。
3. 出願締切日の2年前以降に受験したTOEFL/TOEIC/IELTSテストのスコア票に限り提出が可能である。自宅受験「TOEFL iBT® Home Edition」(「TOEFL iBT® Special Home Edition」を含む)のスコア票は受け付けるが、TOEFL Essentials テスト、団体試験用のTOEFL ITP のスコア票やカレッジTOEIC等の団体特別受験制度(IPテスト)は受け付けない。
4. TOEFL、TOEIC、IELTSを合わせて複数回受験している場合、そのうちいずれか1つのスコア票を提出すること。
5. 異なる英語テスト(TOEFL/TOEIC/IELTS)のスコアの換算は、Ⅷ. コース志望区分及び試験科目についての補足を参照すること。
6. 出願時に上記2で指定するスコア票等の提出が間に合わない場合は、出願時に、その旨を明記した書面(A4判、様式随意)を提出すれば、8月2日の最初の試験科目の開始前に、試験会場での提出を認める。ただし、その時点で提出されない場合は、「提出なし」(すなわち、英語能力の評価を0点)として扱う。

VI. 出願手続及び注意

1. 出願者は、出願書類等を次の提出先(受付会場)へ持参または、送付すること。郵送に際しては、書留速達便・レターパックプラス等の安全な手段によるものとし、封筒の表に「修士課程募集(2026年4月期)出願書類在中」と朱書(レターパックプラスの場合は「品名」に記載)のうえ、次の提出先へ送付すること。なお、提出された出願書類に不備があれば、こちらから問い合わせることがある。
2. 受験票の発送により、受理したことへの通知に代える。
3. 出願書類受理後は、原則として出願事項の変更は認めず、出願書類が受理された場合の入学検定料の払い戻しには応じない。原則として、提出された出願書類は返却しない。
4. 本募集について、各出願者については一通の願書のみ受理し、複数コースへの出願は認めない。
5. 本研究科の2026年度修士課程推薦選抜ですでに合格となった者は、本募集要項での募集及び今年度に行われる本研究科修士課程の他の募集について出願することはできない。
6. 今回の選抜で合格となった者は、第2次募集等、今年度に行われる2026年度4月期入学の本研究科修士課程の他の募集について出願することはできない。
7. 2025年度10月期入学の選抜との併願者は、当該選抜において合格となった場合、本募集

による合否判定対象者から除外する。（2025年度10月期入学の選抜で合格となった者が本募集による選抜の合格者となることはない。）

8. 外国の大学を卒業した者あるいは外国において学士の学位を取得した者について、合格発表の後に、入学資格の確認を行う場合がある。京都大学の定める入学資格に該当しない場合は、入学試験において合格と判定されても、入学手続きが受理されない。

【出願書類等受付日及び提出(送付)先】

(1) 持参の場合

2025年6月17日(火)

受付時間：午前10時から正午、午後1時30分から午後5時まで。

【受付会場】京都市左京区吉田本町

京都大学大学院情報学研究科教務掛（総合研究8号館1階）

（裏表紙構内図参照）

(2) 郵送の場合

受付期間：2025年6月4日(水)～17日(火) 午後5時(必着)

提出先：〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院情報学研究科教務掛

TEL (075) 753-4894, 5500

9. 障害等があつて受験上の配慮を必要とする出願者の事前相談を受け付ける。相談の内容によっては対応に時間を要することもあるため、相談依頼文書（様式随意、ただし下記情報を含むこと）に障害者手帳の写し又は医師の診断書を添付し、6月6日(金)までに上記出願書類提出先に郵送すること。

【相談依頼文書に明記する事項】

- ・氏名、生年月日、住所、電話番号、メールアドレス
- ・志望コース名、課程（修士・博士後期）の別
- ・障害等の種類、および程度
- ・希望する配慮事項

VII. 入学者選抜方法及び学力検査日程

1. 入学者の選抜は、出願書類の内容、学力検査（筆記試験・口頭試問）の成績により行う。
なお、知能情報学コース、社会情報学コース及び先端数理科学コースにおいては、口頭試問の対象者は、筆記試験の結果により決定される。
2. 学力検査は、次の日程により本研究科において行う。（コースにより日程が異なるので注意すること。）

◎2026年度4月期修士課程学力検査日程

試験科目の内容、出題範囲、選択形式などの詳細については、後掲VIIIに記載されているので、熟読すること。

コース名	月 日	試験時間	試 験 科 目
先 端 数 理 科 学	7月12日(土)	10:00～11:30 13:00～14:30 16:00～	基礎科目 専門科目 口頭試問（注1）
	7月13日(日)		予備日（注2）

注1. 口頭試問対象者及び口頭試問日時は、7月12日(土) 午後3時45分までに情報学研究科事務室前入試用掲示板（総合研究8号館1階）に掲示する。口頭試問対象者の中から合格者を決める。

注2. 暴風警報等の発令により試験実施が困難な場合に、予備日を利用して試験の実施日程を繰り下げることがある。試験日を変更する場合は、試験当日の朝（午前7時まで）にWEBページ（<https://www.i.kyoto-u.ac.jp/>）にて告知するので、受験生は必ず事前に確認しておくこと。

コース名	月 日	試験時間	試 験 科 目
知 能 情 報 学	8月2日(土)	9:30～11:30 12:30～14:30	情報学基礎 専門科目
	8月3日(日)	15:00～	口頭試問 (注2)
	8月4日(月)(注1)		予備日
社 会 情 報 学	8月2日(土)	9:30～11:30 12:30～14:30	情報学基礎 専門科目
	8月3日(日)	10:00～	口頭試問 (注3)
	8月4日(月)(注1)		予備日
数 理 工 学	8月2日(土)	9:30～11:30 12:30～14:30	基礎科目 専門科目
	8月3日(日)	10:00～12:00	口頭試問
	8月4日(月)(注1)		予備日
シ ス テ ム 科 学	8月2日(土)	9:30～11:30 12:30～14:30	数学 専門科目
	8月3日(日)(注1)		予備日
通 信 情 報 シ ス テ ム	8月2日(土)	9:00～11:30 12:30～15:00	専門基礎 A 専門基礎 B
	8月3日(日)(注1)		予備日
デ ー タ 科 学	8月2日(土)	9:30～11:30 12:30～14:30	情報学基礎 専門科目
	8月3日(日)(注1)		予備日

注1. 暴風警報等の発令により試験実施が困難な場合に、予備日を利用して試験の実施日程を繰り下げることがある。試験日を変更する際は、試験当日の朝（午前7時まで）にWEB ページ（<https://www.i.kyoto-u.ac.jp/>）にて告知するので受験生は必ず事前に確認しておくこと。

注2. 知能情報学コースの口頭試問対象者及び口頭試問日時は、8月3日（日）午後1時までに情報学研究科事務室前入試用掲示板（総合研究8号館1階）に掲示する。

注3. 社会情報学コースの口頭試問対象者及び口頭試問日時は、8月3日（日）午前9時30分までに情報学研究科事務室前入試用掲示板（総合研究8号館1階）に掲示する。

3. 受験票は、出願時に指定された受け取り先住所に7月中旬（先端数理科学コースにおいては、7月上旬）に郵送する。7月28日（月）（先端数理科学コースにおいては、7月7日（月））までに受験票が届かない場合は、本要項【問合せ先】に記載のメールアドレスに問い合わせること。

なお、海外在住者には受験票をスキャンしたPDFファイルを入学願書に記載のメールアドレス宛に送付するので、紙に印刷したものを持参すること。

4. 試験場等受験に関する注意事項の掲示について
掲示内容については各自で確認すること。電話等による問い合わせには応じない。

① 先端数理科学コース

日 時：7月12日（土）午前9時15分までに行う

場 所：情報学研究科事務室前入試用掲示板（総合研究8号館1階：裏表紙構内図参照）

② 知能情報学コース、社会情報学コース、数理工学コース、システム科学コース、通信情報システムコース、データ科学コース

日 時：8月1日（金）午後1時以降に行う

場 所：情報学研究科事務室前入試用掲示板（総合研究8号館1階：裏表紙構内図参照）

5. 試験当日は、試験開始20分前までに当該試験室前に集合すること。なお、口頭試問については、コースによって別の指示があるときはその指示に従うこと。

6. 学力検査（筆記試験）に関する注意事項

① 試験室では必ず受験票を携帯し、試験監督の指示に従うこと。

② 試験に使用を認めるものは、鉛筆・シャープペンシル・鉛筆削り・消しゴム・定規・時計

(計時機能だけのもの)・ハンカチ・ティッシュペーパー(中身だけを取り出したもの)に限る。スマートフォン・携帯電話等を机の上に出すことはできない。

- ③ 辞書・事典(電子辞書を含む)の使用を許可しない。
- ④ その他参照物については、コースの指示に従うこと。
- ⑤ 試験開始時間に遅れた場合は、各科目とも試験開始後30分以内に限り入室を認める。
- ⑥ 欠席した科目の点数は0点として扱う。2科目以上欠席した場合は失格として扱うので、以後の科目を受験することができない。

7. 口頭試問に関する注意事項

口頭試問の対象者で口頭試問を欠席した場合は失格として扱う。

Ⅷ. コース志望区分及び試験科目についての補足

1. 各コースの志望区分及び試験科目等についての補足は、次頁以降に記載。

2. 志望区分について

各コースの志望区分には、それぞれ収容定員があり、第一志望どおりに配属し得ない場合もあるので、志望区分の順位を出願時に申告すること。

入学願書の所定欄に、志望コース内で配属を志望する志望区分を熟考のうえ、各コースの指示に従って志望順に記入すること。(先端数理科学コースでは口頭試問時に志望区分の再確認を行い、変更を認める。)

記入していない区分には配属の意思がないものとみなされ、得点が合格者最低点より高い場合でも不合格となることがある。

入学願書に記載した事項は、原則として願書が受理されてからは修正・変更できないため、注意して記入すること。

(注意) ※印を付した志望区分は今回募集を行わないので、選択することはできない。

なお、「志望区分案内」は <https://www.i.kyoto-u.ac.jp/admission/application/>に掲載されているので、出願前に必ず確認すること。

(1) 知能情報学コース

(ア) 情報学基礎についての補足

下記 2 分野に関する基礎的な問題をそれぞれ 2 題出題する。4 題とも解答すること。

- ・ 線形代数、微分積分
- ・ アルゴリズムとデータ構造

(イ) 専門科目についての補足

下記 6 分野からそれぞれ 1 題出題する。2 題選択し解答すること。

- ・ 統計学
- ・ パターン認識と機械学習
- ・ 情報理論
- ・ 信号処理
- ・ 形式言語理論
- ・ 認知神経科学、知覚・認知心理学（注 1）

(ウ) 筆記試験についての補足

筆記試験は、日本語と英語が併記で出題される。解答は日本語あるいは英語で行うこと。

(エ) 英語に関する補足

提出された英語スコアの種別（TOEIC/TOEFL/IELTS）に応じて、下記の計算式を適用することとで入学試験の英語スコア（50 点満点）とする。

- ・ 英語スコア = $0.056 \times \text{TOEIC スコア} - 13.377$
- ・ 英語スコア = $0.417 \times \text{TOEFL スコア}$
- ・ 英語スコア = $7.361 \times \text{IELTS スコア} - 9.826$ （最大は 50）

(オ) 口頭試問についての補足

志望区分に関連する学識と希望する研究に関する口頭試問を日本語あるいは英語で行う。ただし、口頭試問の対象者は、筆記試験の結果と英語スコアを用いて決定する。

(カ) 合格者決定に関する補足

筆記試験の点数、英語スコア、口頭試問の点数（口頭試問対象者のみ）、および各志望区分の受入れ可能な学生数を総合して合格者を決定する。配点は、情報学基礎 100 点、専門科目 100 点、英語スコア 50 点であり、口頭試問対象者については口頭試問 200 点である。

(キ) 志望区分及び研究分野

配属を希望する志望区分を希望順に記入すること。希望しない志望区分の記入は不要である。知-4a、知-4b については、それぞれを一つの志望区分とする。志望区分は最大 7 位まで記入することができる。

志望区分	研 究 分 野
知-1	脳情報学、ブレイン・デコーディング、ブレイン・マシン・インタフェース、脳イメージング、計算論的神経科学、視覚科学、生物学的精神医学、社会神経科学、神経経済学
知-2	心理情報学、高次脳機能、認知神経心理、認知的インタフェース、人間の心理状態の推定、認知科学
知-3	認知情報学、視覚科学、心理物理学、メタ認知（自己認知に対する認知）、人間の視覚と機械の視覚の比較、人間の感覚特性を利用したメディア技術

知-4a◎	計算論的認知神経科学 、計算脳科学、意思決定と強化学習、社会知性の脳計算、脳型知能と機械学習、ヒト fMRI 実験と理論
知-4b◎※	計算論的認知神経科学 、感情センシング、表情認識、人-ロボット相互作用、実験心理学、fMRI 計測、生理計測
知-5※	知能計算 、知識発見、計算論的学習、機械学習のための最適化
知-6	集合知システム 、機械学習、データマイニング、ヒューマンコンピューテーション
知-7	記号創発システム 、記号創発ロボティクス、コミュニケーション創発、マルチモーダル言語理解、認知アーキテクチャ、人間を系に含んだシステム
知-8	言語メディア 、言語情報処理、言語解析、言語生成、機械翻訳、情報検索
知-9	音声メディア 、音声認識、音環境理解、ロボットとの音声対話
知-10	コンピュータビジョン 、視覚情報処理、視覚知能
知-11	ヒューマンセンシング 、視覚・生理学計測、人間動作理解と運動アシスト、コミュニケーションの計測と支援
知-12	テキストメディア 、言語理解、言語生成、言語知識獲得、思考・認識の言語化、シンボルグラウンディング
知-13	バイオ情報ネットワーク 、バイオインフォマティクス、数理生物情報学、複雑ネットワーク

◎連携ユニット（知-4a、知-4b）について

本コースでは、知能情報学の基盤となる脳の計算論的理解に関する教育・研究を推進する目的で、理化学研究所（理研）との間で「計算論的認知神経科学連携ユニット」を設置している。

知-4a は理研脳神経科学研究センター（埼玉県和光市）、知-4b は理研ロボティクスプロジェクト（けいはんな学研都市）に所属する連携教員で構成され、本コース教員の主任指導のもとで、連携教員から研究指導補助を受ける。履修要件や修了要件は、他を志望した学生と同一である。連携ユニットの連携教員や研究分野については、知能情報学コースのホームページを参照のこと。

※計算論的認知神経科学（知-4b）、知能計算（知-5）について

当該分野に関しては、本年度は配属しない。

（ク）コースのホームページ

<https://www.ist.i.kyoto-u.ac.jp/>

注 1) 専門科目の認知神経科学、知覚・認知心理学の範囲として以下の図書を参考にすること。

「The Student's Guide to Cognitive Neuroscience, Fourth Edition」, Jamie Ward 著, Psychology Press, ISBN-10 : 1138490547, ISBN-13 : 978-1138490543

(2) 社会情報学コース

(ア) 専門科目についての補足

以下の4つの出題分野（計算機科学、生物・環境、防災システム、医療情報）からそれぞれ複数の問題が出題される。第一位の志望区分が指定する出題分野の問題から3題を解答すること。志望区分、出題分野とその出題範囲の対応は以下のとおりである。指定以外の出題分野の問題を解答した場合、その問題の得点は0点とする。

志望区分	出題分野	出題範囲
社－1、社－2、 社－3、社－5、 社－6、社－14、 社－15	計算機科学	人工知能、データベース、情報システム、計算機ソフトウェア、情報ネットワーク、データ構造、アルゴリズム、パターン認識、情報教育、ヒューマンインタフェース
社－8、社－9	生物・環境	生物学、生態学、環境評価、環境問題、データ収集法、生物統計学
社－10、社－11、 社－12	防災システム	計画学、空間情報学、防災工学、防災心理学、リスク・コミュニケーション論、危機管理論
社－13	医療情報	医療情報学、生体医工学、病院管理学

(イ) 情報学基礎についての補足

情報学基礎に関する筆記試験は以下に指定した教科書の内容から3題出題する。

「入門 コンピュータ科学 IT を支える技術と理論の基礎知識」

(J. Glenn Brookshear 著、神林靖・長尾高弘 翻訳、

KADOKAWA/アスキー・メディアワークス 出版、

ISBN-10: 4048869574、ISBN-13: 978-4048869577（第10版）、もしくは

ISBN-10: 4048930540、ISBN-13: 978-4048930543（第11版））

※第10版と第11版の共通部分から出題する（第11版を使用する際は、第5ページの「第11版で加えたもの」を参照）。ただし、第10章「コンピュータグラフィックス」は出題範囲から除く。

(ウ) 筆記試験についての補足

筆記試験は、日本語と英語が併記で出題される。日本語あるいは英語で解答すること。

(エ) 英語についての補足

配点は150点である。TOEIC、TOEFLとIELTSのスコアを150点満点に換算する。

(オ) 口頭試問についての補足

口頭試問は8月3日午前10時から予定されているが、口頭試問対象者は8月2日の筆記試験の結果により決定する。

社会情報学コースではコミュニケーション力を重視している。口頭試問では、まず、日本語あるいは英語で5分以内で、提出された志望説明書の内容について口頭で簡潔に説明を行うこと（プロジェクト等は使用しない）。次に、研究経過、研究計画等についての試問を行う。

口頭試問会場への受験票以外の所持品の持ち込みを禁じる。

なお、志望説明書の書式は（カ）を参照すること。

(カ)志望説明書の書式についての補足

様式

口頭試問では、出願者は提出された「志望説明書」に従ってこれまでの学修・研究の経過、志望動機、入学後の研究の抱負などを5分以内で説明し、その後質疑を受ける。PC、液晶プロジェクタ、OHP等を用いたプレゼンテーションは行わない。

試験官には出願者が提出した「志望説明書」のコピーを配布する（出願者がコピーを用意する必要はない）。

試験官は「志望説明書」を見ながら出願者の説明を聞くため、「志望説明書」の作成にあたっては、簡潔で分かりやすいものとなるよう各自工夫すること。（たとえば要点をまとめた図や表などを用いて内容を表現し、どの部分を説明しているかを明確にするためにそれぞれのスライドや図表にキャプションを加えるなど）。

書式

A4判片面2枚以内で作成すること。

先頭ページには冒頭に出願者名を明記すること。研究テーマの記載は任意とする。

ページは左右上下とも2.5cm以上の余白を設定すること。

文字フォントサイズは刷り上り10.5ポイント以上にすること。

PowerPoint等のスライドを載せる場合は、1スライドが1/4ページ以上となるようにすること。

(キ)志望区分及び研究分野

配属を希望する志望区分を希望順に記入すること。希望しない志望区分の記入は不要である。

志望区分は最大7位まで記入することができる。

志望区分	研 究 分 野
社－1	ヒューマンコンピュータインタラクション、ユーザエクスペリエンス、人間中心 AI、インクルーシブ・デザイン、ウェルビーイング、ソーシャル・コンピューティング、人間行動理解
社－2	ヒューマンロボットインタラクション、知能ロボティクス、センサネットワーク、インタラクション、コミュニケーションロボット、人工知能、サイバーフィジカルシステム
社－3	あらゆる有益な情報の共有環境の実現：Web 情報分析、ソーシャルネットワーク分析、クラウドソーシング、情報検索、データベース、情報アクセスインタフェース
社－5	マルチエージェントシステム、計算論的メカニズムデザイン、ソーシャルコンピューティング、意思決定・合意形成、コレクティブインテリジェンス、人工知能、サービスコンピューティング
社－6	安全・安心な情報社会の確立、暗号理論、デジタル署名、ゼロ知識証明、マルチパーティー計算、実装安全性、暗号通貨、プライバシー保護
社－8	情報学からの資源生物科学・生態学の探究、環境変動と生物応答、資源動物・絶滅危惧種の行動・生態、生物資源データの収集・解析
社－9	生態系の保全と利用、生態系サービスの評価、水と物質循環のモニタリング、環境情報の収集・アーカイブ・利用

社－10	総合防災施策のデザイン、災害リスク管理、災害の経済分析、災害復興、防災計画、災害リスクガバナンス、災害リスク・コミュニケーション、災害リスク制御、災害リスクファイナンス
社－11	災害リスク・コミュニケーション、防災心理学、社会心理学、アクションリサーチ、災害情報、避難行動、減災・防災文化、防災教育、地域防災、災害復興、災害の伝承
社－12	災害情報システムのデザイン、危機管理、災害対応、災害時情報収集、レスキュー活動、避難行動、災害リスク・コミュニケーション、GIS、時空間データベース、マイクロジオデータ、防災データサイエンス
社－13	医療 DX、ユビキタス病院情報システム、診療空間情報計測、電子カルテ、EHR・PHR、データヘルス、医療 AI、病院管理、遠隔医療、ウェアラブル生体情報計測、モバイルヘルス、医用 VR・AR
社－14	教育・学習工学、e ラーニングシステム、ラーニングアナリティクス、教育データサイエンス、教育ビッグデータ、モバイル・ユビキタス学習環境、協調学習環境、知的教育・学習支援システム
社－15	大規模分散システム、ピア・ツー・ピア、ブロックチェーン、サイバーセキュリティ、クラウド・エッジコンピューティング、インターネット、分散機械学習、データ工学、ソーシャルグラフ分析、分散データベース、ミドルウェア、計算機システム

(ク)合格者決定に関する補足

筆記試験の点数、口頭試問の点数、および各志望区分の受入れ可能な学生数を総合して合格者を決定する。各科目の配点は、情報学基礎 150 点、専門科目 300 点、英語 150 点、口頭試問 100 点である。

(ケ) コースのホームページ

<https://www.soc.i.kyoto-u.ac.jp/>

(3) 先端数理科学コース

(ア)「基礎科目」についての補足

2 題の必須問題と 3 題の選択問題の計 5 題が出題され、受験者は 3 題の選択問題の中から 1 題を解答時に選択して合計で 3 題を解答する（配点 150 点）。必須問題は理系学部 1、2 年生で学修する程度の線型代数および微積分（留数等を利用する定積分の計算を含む）から出題される。選択問題は、線型代数、微積分に関する事項、および、常微分方程式、1 変数の複素解析に関する初歩的事項、質点・質点系の力学および剛体の力学に関する事項から出題される。

(イ)「専門科目」についての補足

「解析学」「応用数学」「工業数学・計算力学」「統計力学」「流体力学」の合計 5 題が出題され、各受験者は解答時にこの中から 1 題を選択して解答する（配点 150 点）。

なお、上記の「応用数学」、「工業数学・計算力学」の指す具体的な内容は、以下の通りである。

応用数学：より進んだ内容の線型代数および微積分（ベクトル解析を含む）、1 変数の複素関数論、常微分方程式、偏微分方程式（初歩的な内容）、フーリエ解析、および数値解析・数値計算に関する事項など。

工業数学・計算力学：工学系学部で学習する程度の数学（ベクトル解析、複素解析、フーリエ解析等）に関する計算問題と数値計算に関する事項など。留数を利用する単純な定積分の計算は、原則として出題しない。

なお、試験準備の参考となる問題が（オ）のコースホームページには掲載されている。

(ウ)口頭試問についての補足

基礎科目、専門科目の点数および出願書類の内容を総合して口頭試問対象者を決定し、口頭試問対象者に対して志望区分まで含めて可否により合格者を決定する 2 段階の選抜を行う。

口頭試問においては、志望動機、出身（在学する）大学での学習内容（特に卒業研究に関する内容）、志望区分及び希望する研究分野、筆記試験の内容などについての試問を行う。口頭試問は日本語で行う。

(エ)志望区分及び研究分野

以下の 6 つのコース志望区分の中から、順位を付けて 3 つまで記入すること。

志望区分	研 究 分 野
先端－1	応用解析学、逆問題、非線型問題、偏微分方程式、確率論、フラクタル解析
先端－2	非線形力学、非線形振動系、計算物理学
先端－3	理論神経科学、非平衡・非線形物理学、ネットワーク結合力学系
先端－4	数値シミュレーション、数値解析、計算力学、計算工学
先端－5	流体力学、希薄気体力学、流体の数値計算
先端－6	統計的信号処理、モデルベース機械学習、スパースモデリング

志望区分の順位等については口頭試問の際に再確認するが、その際に願書に書かれているものを変更することを認める。

(オ)コースのホームページ

<https://www.acs.i.kyoto-u.ac.jp/>

(カ) 試験科目には「英語」を課していないが、入学後の学習では英語力は必要である。

(4) 数理工学コース

(ア) 基礎科目および専門科目についての補足

基礎科目及び専門科目の出題範囲ならびに配点は以下の通りである。

基礎科目

1. 微積分
2. 線形代数

専門科目

1. 複素関数／フーリエ解析 : 複素関数の微積分、留数定理とその応用、フーリエ級数、フーリエ変換など
2. グラフ理論 : グラフ探索、最短路問題、最小木問題など
3. 凸最適化 : 凸集合と凸関数、線形計画(シンプレックス法は除く)、Karush-Kuhn-Tucker 条件、双対定理など
4. 制御理論 : 古典制御(伝達関数、周波数応答、安定判別、フィードバック補償など)及び現代制御(可制御、可観測、安定性、オブザーバ、最適レギュレータなど)
5. 統計力学 : 統計力学の基礎(統計的独立性、エルゴード性、分配関数、ギブス分布、マクスウェル分布、ボルツマン分布、ゆらぎの時間相関など)
6. 常微分方程式 : 初等解法、基礎定理、高階方程式、連立方程式など

基礎科目は2題すべてを、専門科目は6題の中から2題を試験中に選択し解答のこと。

筆記試験は日本語と英語が併記で出題され、日本語あるいは英語で解答すること。

基礎科目は1題あたり50点、計100点の配点である。

専門科目は1題あたり100点、計200点の配点である。

(イ) 英語についての補足

英語の配点は100点とし、その点数は下記の式によって計算される。ただし最大100点、最小25点とし、小数点以下は切り上げとする。また英語スコア不提出の場合は0点とする。

$$\begin{array}{llll} \text{英語の点数} = & 0.1247 & \times (\text{TOEIC のスコア}) - 18.7168 & \text{※TOEIC の場合} \\ & 0.943 & \times (\text{TOEFL のスコア}) + 10.358 & \text{※TOEFL の場合} \\ & 16.667 & \times (\text{IELTS のスコア}) - 16.668 & \text{※IELTS の場合} \end{array}$$

(ウ) 口頭試問についての補足

口頭試問においては、志望動機、出身(在学する)大学での学習内容、希望する専門分野、修了後の進路などについて試問を行う(日本語あるいは英語を使用)。筆記試験、口頭試問の可否、各志望区分の受入れ可能な学生数により可否を判定する。

(エ) 志望区分及び研究分野

配属を希望する区分を志望順に記入すること。記入する数に制限はない。

志望区分	研 究 分 野
数－１	数理解析、ソリトン・可積分系の数理解、行列・固有値アルゴリズム
数－２	離散数理解、組合せ最適化アルゴリズム、グラフ・ネットワーク、計算の複雑さ
数－３	最適化数理解、数理計画の理論と応用、オペレーションズ・リサーチ
数－４	制御システム論、ロバスト最適制御、システム同定・モデリング
数－５	物理統計学、非線型・複雑系の基礎理論、確率過程の基礎と応用
数－６	力学系、微分方程式、数理物理学
数－７	応用数理モデル、モデル論、社会・情報システムモデリング

(オ) コースのホームページ

<https://www.amp.i.kyoto-u.ac.jp/>

(5) システム科学コース

下記の補足内容のうち(ア)、(イ)は出題範囲として提示するものである。

(ア) 数学についての補足

「微積分」および「線形代数」から出題する。配点は200点である。

(イ) 専門科目についての補足

「複素関数論」、「確率統計」、「制御工学」、「信号処理」が出題され、各受験者はこの中から2分野を解答時に選択して解答する。配点は1分野100点で、合計200点である。出題分野の具体的な内容は下記の通りである。

複素関数論	: 複素平面、正則関数とその性質、複素積分、留数と実定積分、関数（級数）展開、等角写像など
確率統計	: 確率・推測統計の基礎的事項
制御工学	: 伝達関数、ボード線図、安定判別、根軌跡、位相進み遅れ補償など古典制御理論全般（非線形制御、サンプル値制御は除く）
信号処理	: フーリエ解析、Z変換、線形フィルタなど

(ウ) 英語についての補足

配点は120点であり、TOEFLのスコアを120点満点に換算する。

(エ) 筆記試験についての補足

筆記試験は、日本語で出題される。日本語あるいは英語で解答すること。

(オ) 合格者決定についての補足

筆記試験の点数、英語の点数、出願書類の内容、および各志望区分の受け入れ可能な学生数を総合して合格者を決定する。

(カ) 志望区分及び研究分野

以下の区分を志望順に記入すること。記入する数に制限はないが、希望しない志望区分の記入は不要である。また、「シー9」を志望する場合は、研究分野表の下に記載の（補注）にしたがうこと。

志望区分	細目	研 究 分 野
シー1		機械システム制御、システム制御理論、ネットワークシステム、群知能 ヒューマンシステム論、プロセスデータ解析・制御、生体・医療情報処理、 低炭素製造技術
シー2		
シー3		統合動的システム論、最適制御、非線形システム、不確実システム
シー4		情報数理システム、情報統計力学、情報通信理論、統計的学習理論
シー5		統計知能、統計学、機械学習、データ科学
シー6		学習機械、ロボティクス、ヒューマノイド運動学習、ヒト動作推定
シー7		論理生命学、強化学習、脳の学習モデル、ブレイン・マシン・インターフェース
シー8		バイオサイバネティクス、生体運動制御、医工情報学、予測医学基盤
シー9	(a)	計算神経科学、ブレインネットワークインターフェース
	(b)	神経回路情報処理、自由エネルギー原理、アトラクターダイナミクス
	(c)※	大脳基底核と神経修飾物質、進化ロボティクス

※印で示した「志望区分（細目）」に関しては、今回は配属しない。

(補注) 志望区分「シー 9」は以下の(キ)にある連携ユニットに対応する。この区分を志望する場合は、研究分野についての細目を付記すること。例えば、「シー 9 (a)」などと、志望する分野を細目つきで、他の区分とともに志望順に記入すること。

(キ)連携ユニットについて

システム科学に関する幅広い視野を有する高度人材の養成を目的として、ATR脳情報研究所、理化学研究所脳神経科学研究センター、沖縄科学技術大学院大学との間で「計算神経科学連携ユニット」を設置している。連携ユニットは当研究科教員のほか上記の他機関からの連携教員で構成され、当研究科教員の主任指導の下で他機関の連携教員からの研究指導補助を受ける。その他の履修要件、修了要件は同一である。これら連携ユニットを担当する他機関の連携教員は、システム科学コースのホームページで公開している。

(ク)コースのホームページ

<https://www.sys.i.kyoto-u.ac.jp/>

(6) 通信情報システムコース

(ア) 専門基礎Aについての補足

「数学（微分積分、線形代数）」、「論理回路」、「情報理論」、「計算機アーキテクチャ」の4つの分野から各1題ずつ、計4題が必修問題として出題される。

(イ) 専門基礎Bについての補足

以下に掲げる13の出題分野（カッコ内は出題範囲）の中から出題される。6題が選択問題として出題され、受験者は解答時に3題を選択して解答する。

出題分野及び出題範囲：「数学（複素関数論、フーリエ解析、微分方程式）」、「電磁気学（静電磁気）」、「電気電子回路」、「データ構造とアルゴリズム」、「プログラミング言語」、「グラフ理論」、「情報通信工学（情報伝送、通信ネットワーク）」、「通信基礎論」「電波工学（電磁波、アンテナ、伝搬）」、「計算機システム」、「オートマトンとアルゴリズム論」、「プログラミング言語処理系とOS」、「計算と論理」

(ウ) 筆記試験についての補足

筆記試験は、日本語と英語が併記で出題される。日本語あるいは英語で解答すること。

(エ) 志望区分及び研究分野

配属を希望する志望区分を志望順に記入すること。記入する数には制限はない。

志望区分	研 究 分 野
通－1	アルゴリズム、離散構造、計算量、論理回路、新原理計算
※通－2	
通－3	計算機ソフトウェア、プログラム理論、プログラミング言語
通－4	ディジタル通信、移動体通信、無線信号処理
※通－5	
通－6	情報通信ネットワーク、通信システムアーキテクチャ、トラヒック分析・制御
通－7	集積システム設計技術、並列処理アーキテクチャ、集積回路応用
通－8	半導体集積システム設計技術、低消費電力集積回路設計技術、バイオ・医療応用集積システム
通－9	集積コンピューティングシステム、高信頼集積システム、セキュアコンピューティング、集積システム応用
通－10	レーダーリモートセンシング工学、レーダー大気物理学、赤道超高層大気物理学
通－11	光・電波大気計測、赤道大気科学、大気環境計測
通－12	スーパーコンピューティング、高性能計算、大規模数値解析、数値線形代数
通－13	ネットワークメディア、インターネット、情報セキュリティ、クラウド・エッジコンピューティング、分散アルゴリズム

※については、今回は募集しない。

(オ) 合格者の決定方法

筆記試験の成績（800 点満点）と TOEFL／TOEIC テストの成績（200 点満点に換算）の合計により「有資格者」を定め、有資格者について成績順に希望に従い配属先の区分を決定する。願書に記入していない区分には配属しない。配属先が決定した有資格者を合格とする。TOEFL iBT から TOEIC への換算は、 $(\text{換算点}) = \min(990, 7.453 * (\text{TOEFL iBT のスコア}) + 237.0)$ で行う。

(カ) コースのホームページ

<https://www.cce.i.kyoto-u.ac.jp/>

(7) データ科学コース

(ア) 情報学基礎についての補足

下記2分野に関する基礎的な問題をそれぞれ2題出題する。4題とも解答すること。配点は100点である。

- 線形代数、微分積分
- アルゴリズムとデータ構造

(イ) 専門科目についての補足

下記4分野からそれぞれ1題出題する。2題を選択し解答すること。配点は100点である。

- 統計学
- パターン認識と機械学習
- 情報理論
- 信号処理

(ウ) 筆記試験についての補足

筆記試験は、日本語と英語の併記で出題される。日本語あるいは英語で解答すること。

(エ) 英語についての補足

配点は50点である。TOEFLテストのスコアを50点満点に換算する。

(オ) 志望区分及び研究分野

以下の区分を志望順に記入すること。記入する数に制限はない。

志望区分	研究分野
デー1	統計知能、統計学、機械学習、データ科学
デー2	数理統計学、計算代数統計学、ベイズ統計学、データ科学
デー3	情報数理システム、情報統計力学、情報通信理論、統計的学習理論
デー4	統計的信号処理、モデルベース機械学習、スパースモデリング、情報通信
デー5※	離散構造を伴う機械学習、教育データ科学、教育情報学
デー6	集合知システム、機械学習、データマイニング、ヒューマンコンピューテーション
デー7	健康関連データ科学、医療DX、視機能のデータ科学、データヘルス
デー8	機械学習、メタ学習、帰納バイアスを活用した学習

※デー5については、本年度は配属を行わない。

(カ) コースのホームページ

<https://www.ds.i.kyoto-u.ac.jp/>

(キ) 合格者決定に関する補足

筆記試験の点数、英語の点数、および各志望区分の受け入れ可能な学生数を総合して合格者を決定する。

IX. 合格者発表

下記日時に掲示するとともに、合格者には合格通知書を郵送する。
(電話等による問い合わせには応じない。)

① 先端数理学コース

日 時：2025年7月18日(金) 午後3時

場 所：情報学研究科事務室前入試用掲示板(総合研究8号館1階)

当研究科ホームページにも上記同時刻以降、7月25日(金)午後3時まで掲載する。

② 知能情報学コース、社会情報学コース、数理工学コース、システム科学コース、通信情報システムコース、データ科学コース

日 時：2025年8月15日(金) 午後3時

場 所：情報学研究科事務室前入試用掲示板(総合研究8号館1階)

当研究科ホームページにも上記同時刻以降、8月22日(金)午後3時まで掲載する。

<https://www.i.kyoto-u.ac.jp/admission/pass/> (日本語)

<https://www.i.kyoto-u.ac.jp/en/admission/pass/> (英語)

入学手続については、2026年3月上旬に合格者あて郵送により通知する。

X. 入学料及び授業料

入 学 料 282,000円(予定)

授 業 料 年額535,800円(予定)

注1：国費外国人留学生は入学料・授業料ともに不要。

注2：入学料および在学中に授業料が改定された場合には、改定時から適用される。

XI. 入学試験の成績提供について

入学試験の成績提供を希望する受験生本人に対し、入学試験の成績の情報を提供する。詳細は、情報学研究科ホームページ(<https://www.i.kyoto-u.ac.jp/>)の入試情報に請求方法や申請期間を掲載する。

XII. 個人情報の取り扱いについて

個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「京都大学における個人情報の保護に関する規程」に基づいて取り扱う。入学者選抜を通じて取得した出願書類等に記載されている、氏名、性別、生年月日、住所等の個人情報(合否判定に関する情報を含む)は、①入学試験の実施、②入学手続、奨学金制度等、③入学者の受入準備等の業務目的において利用する。

【募集要項の請求】

《国内からの出願の場合》

募集要項を郵送で請求する場合は、封筒に「募集要項請求」と朱書で明記し、返信用のレターパック(送付先住所・氏名・郵便番号・電話番号を明記したもの)と、必要な募集要項の詳細(修士課程または博士後期課程、推薦選抜・一般選抜の種別、○年度○月期入学等)を記載した用紙を同封のうえ、下記【問合せ先】へ請求すること。出願に際しては添付の書類が必要である。

なお、海外からの出願の場合のみ、当研究科ホームページから入学願書等をダウンロードして出願することも可能である。

<https://www.i.kyoto-u.ac.jp/en/admission/application/> (英語)

【問合せ先】

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学大学院情報学研究科教務掛（総合研究 8 号館）

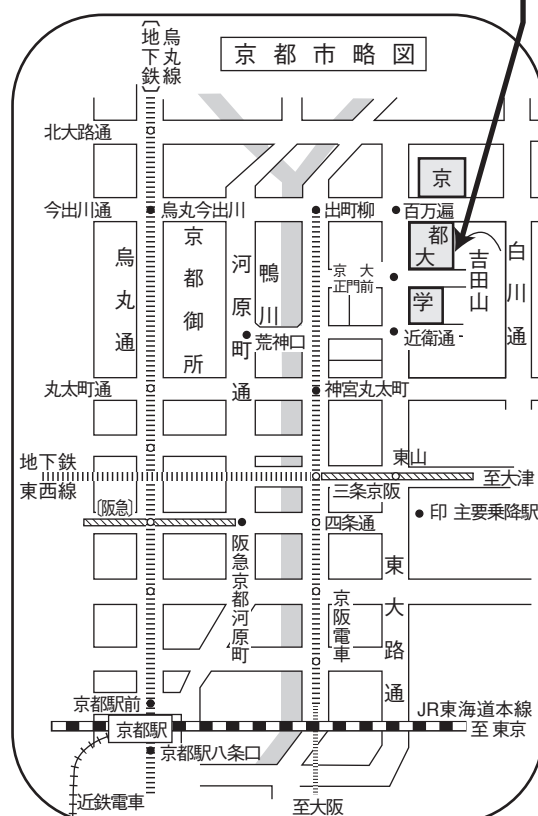
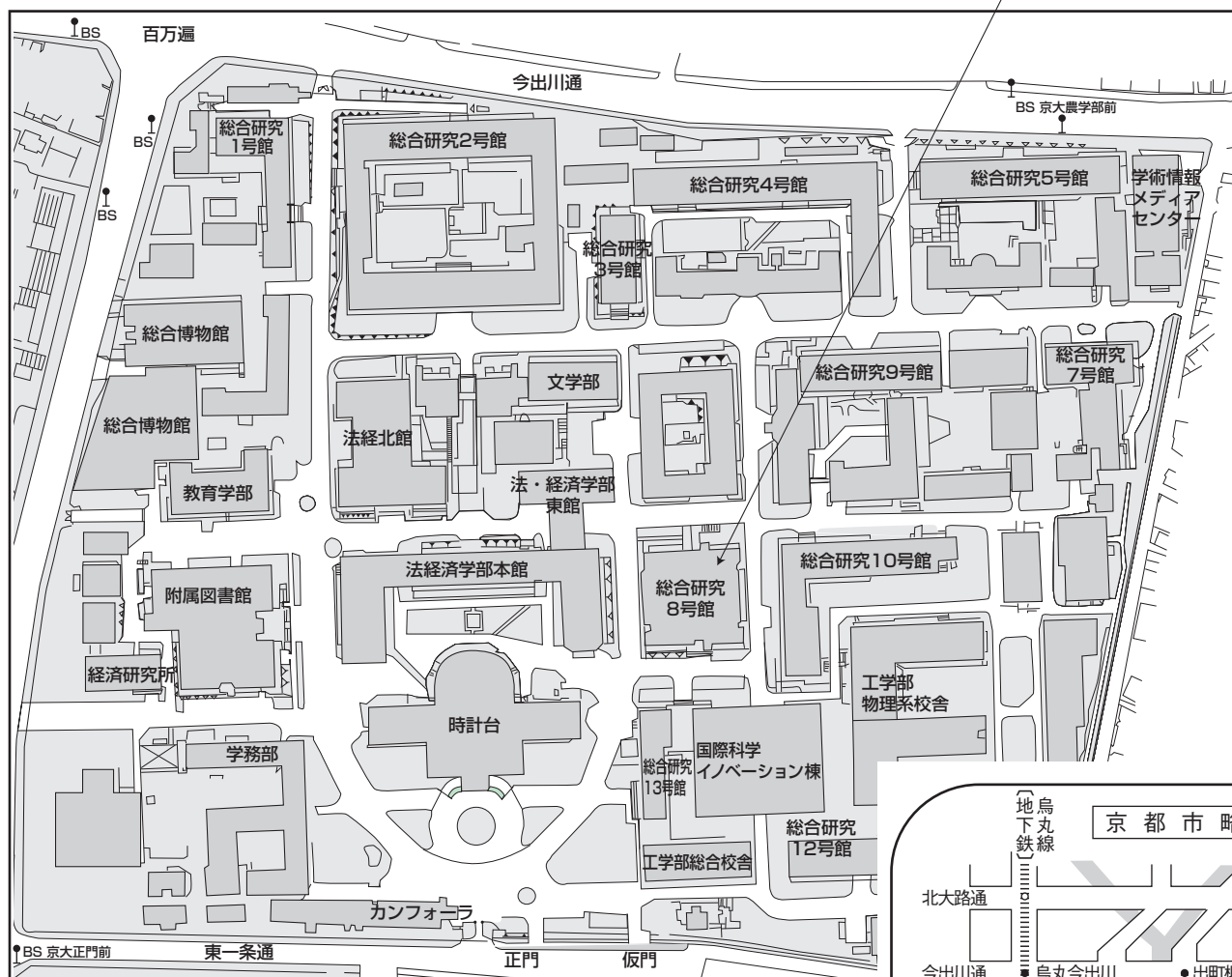
メールアドレス: jyoho-kyomu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

TEL (075) 753-4894, 5500

(時間 平日: 午前 9 時～午後 5 時〈正午～午後 1 時を除く〉)

2025 年 4 月

情報学研究科事務室



主要鉄道駅	乗 車 バ ス 停	市バス系統	市 バ ス 経 路 等	下車バス停
京都駅 (JR・近鉄)	京都駅前(D2のりば)	206号系統	祇園・北大路バスターミナル行き	京大正門前・百万遍
	京都駅前(A2のりば)	7号系統	四条河原町・銀閣寺行き	百万遍・京大農学部前
阪急京都線 京都河原町駅	四条河原町 (Eのりば)	201号系統	祇園・百万遍行き	京大正門前・百万遍
		31号系統	高野・国際会館駅・岩倉行き	京大正門前・百万遍
	四条河原町 (Gのりば)	3号系統	北白川仕伏町行き	百万遍
		7号系統	銀閣寺行き	百万遍・京大農学部前
地下鉄烏丸線 今出川駅	烏丸今出川	201号系統	百万遍・祇園行き	百万遍・京大正門前
		203号系統	銀閣寺道・錦林車庫行き	百万遍・京大農学部前
地下鉄東西線 東山駅	東山三条	206号系統	高野・北大路バスターミナル行き	京大正門前・百万遍
		201号系統	百万遍・千本今出川行き	京大正門前・百万遍
		31号系統	高野・国際会館駅・岩倉行き	京大正門前・百万遍
京阪鴨東線 出町柳駅	当駅下車東へ徒歩約20分			